



タイヤパンク修理キット 取扱書

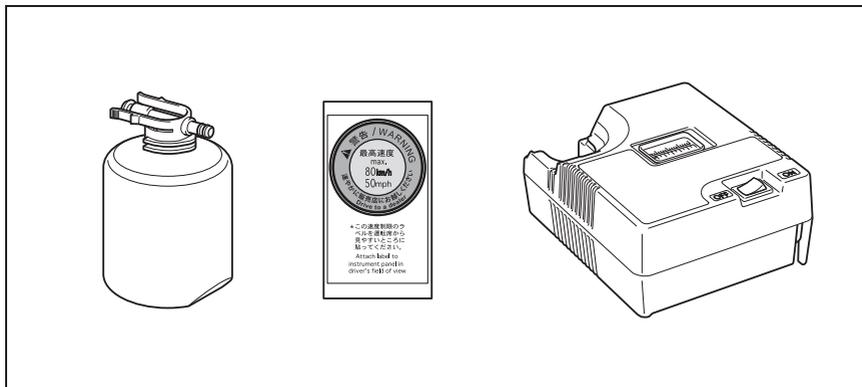
よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。



本書について

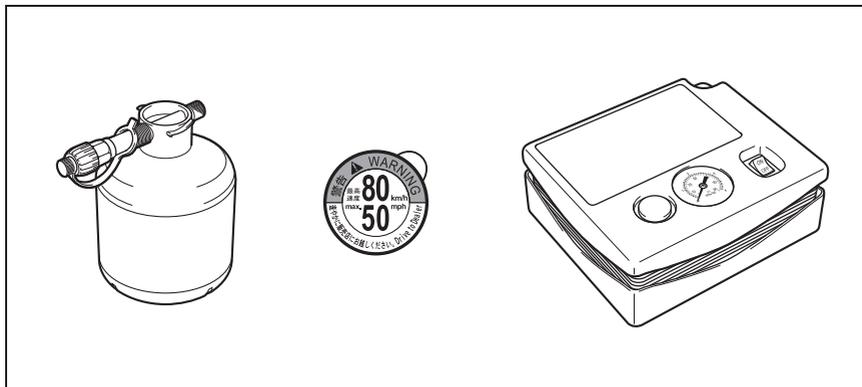
タイヤパンク応急修理キットは、お車の製造時期などの理由により、使用方法が異なる製品が搭載される場合があります。本書は、車両の取扱書に掲載されているタイヤパンク応急修理キットと使用方法が異なる製品が搭載されていた場合に、お使いいただくための説明書です。

■ 次の製品が搭載されていた場合は



車両の取扱書の「パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）」をお読みの上、パンクしたタイヤを応急修理してください。

■ 次の製品が搭載されていた場合は



本書をお読みの上、パンクしたタイヤを応急修理してください。

本書に掲載されている車両のイラストは代表例であり、お客様の車とは意匠が異なります。あらかじめご了承ください。

本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■ タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。

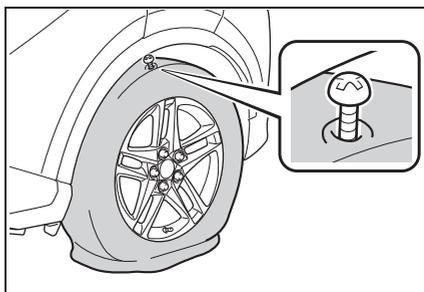
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりとかける
- シフトポジションをPにする
- エンジン／ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- パワーバックドア装着車はパワーバックドアの設定をOFFにする
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



 知識**■ 応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

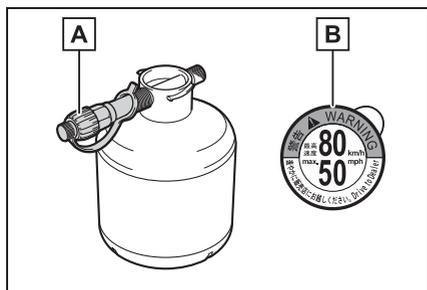
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

タイヤパンク応急修理キット・工具は、ラゲージルームに搭載されています。搭載位置や取り出し方などの詳細については、車両の取扱書の「パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）」を参照してください。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

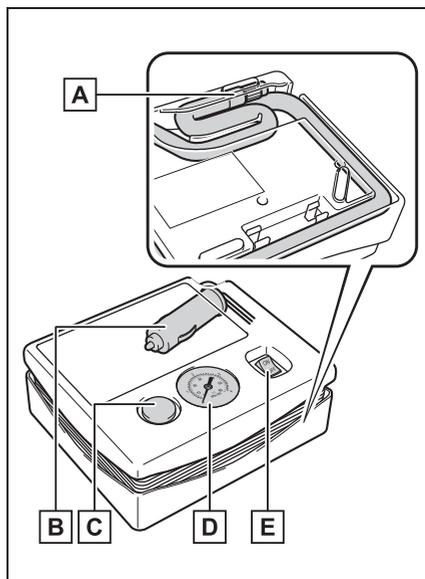
■ ボトル



A ノズル

B 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A ホース

B 電源プラグ

C 空気圧逃がしボタン

D 空気圧計

E 電源スイッチ

 知識**■ 応急修理キットについて**

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できません。
- 外気温度が -30°C ~ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

 **警告****■ タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

● 応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出して破損し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

● 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

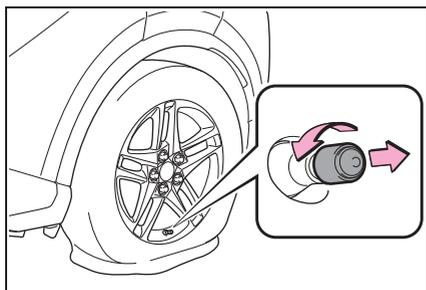
● もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理するとき

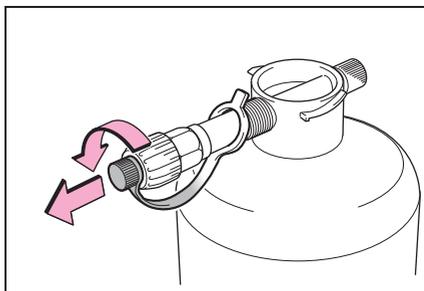
- 1 応急修理キットを用意する
- 2 付属のラベルを運転席から見えやすい位置に貼り付ける



- 3パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



- 4 ノズルからキャップを取りはずす

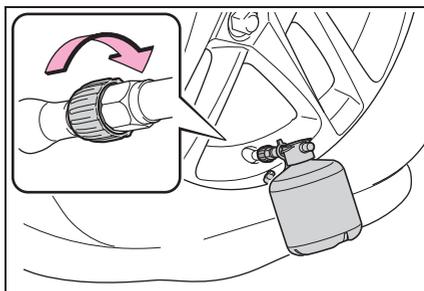


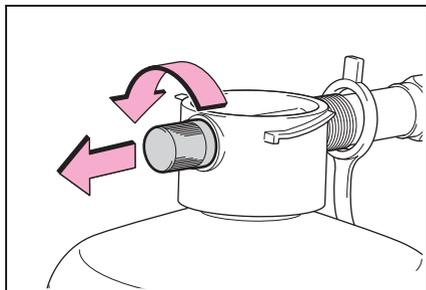
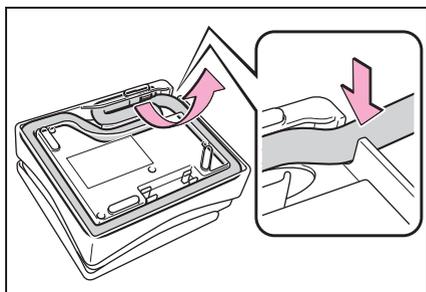
- 5 ノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ノズル先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

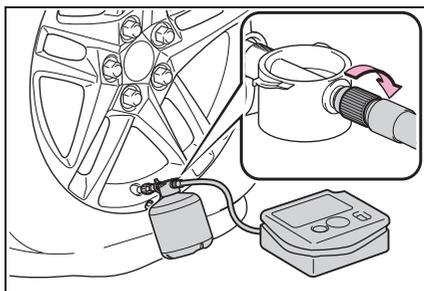
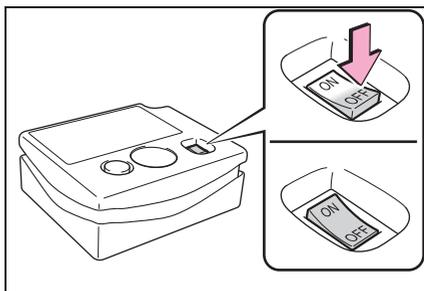
ボトルは垂直にぶら下がるように取り付け、地面と接触させないでください。

もし垂直にできない場合は、バルブの位置が適正になるように車両を移動させてください。

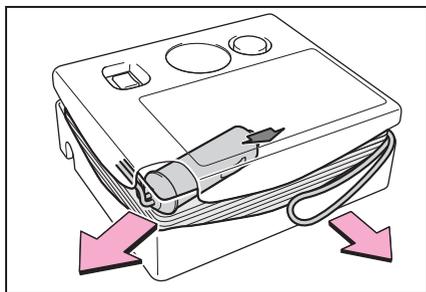


6 ボトルのキャップをはずす**7** コンプレッサーからホースを取りはずす**8** コンプレッサーのホースをボトルに取り付ける

ホース先端を時計回りにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

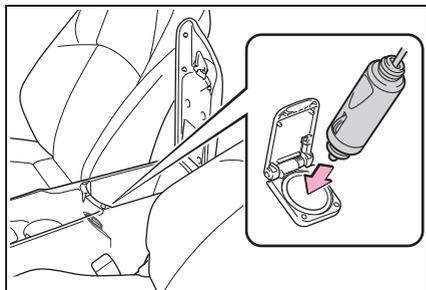
**9** コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

10 コンプレッサーの電源プラグをはずす



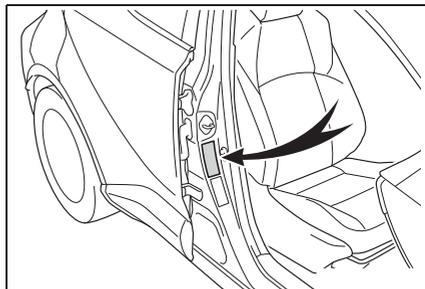
11 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに差し込む

アクセサリースOCKETの装着位置は、車種により異なります。詳しくは、車両の取扱書の「その他の室内装備」を参照してください。



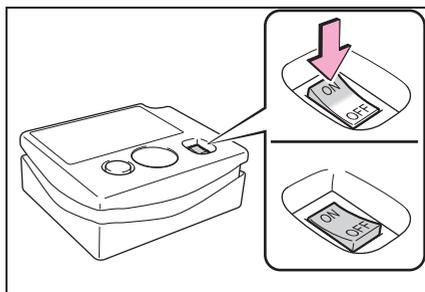
12 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。

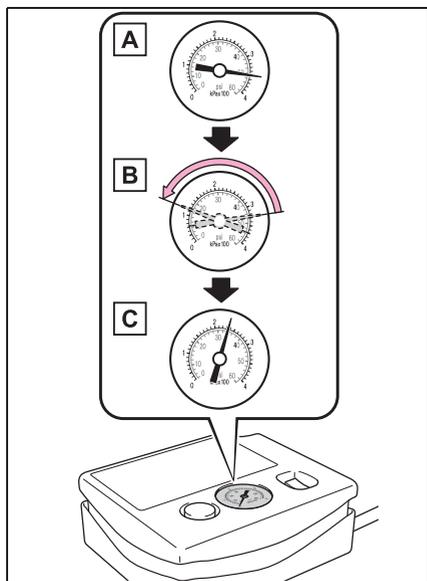


13 エンジン／ハイブリッドシステムを始動する

14 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



15 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

B 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

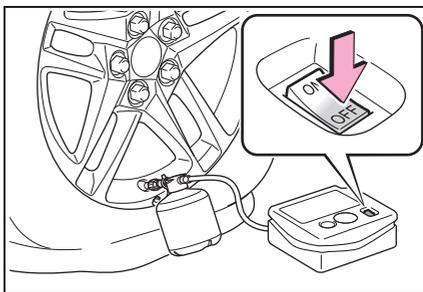
C 指定空気圧になるまで充填する

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。
トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

(→P. 14)

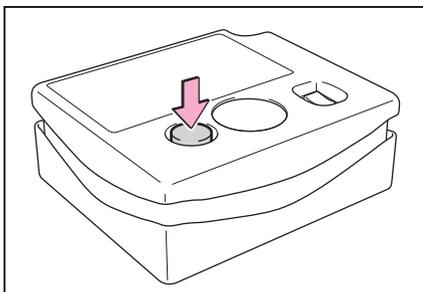
16 コンプレッサーのスイッチを OFF にする



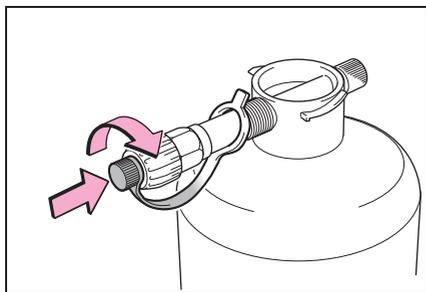
17 アクセサリーソケットから電源プラグを抜く バルブからノズルを取りはずす

ノズルを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

18 空気圧逃がしボタンを押して、 ボトル内部の圧力を抜く

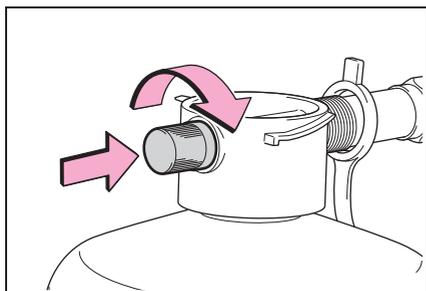


- 19** ノズルのキャップを取り付ける



- 20** パンクしたタイヤのバルブキャップを取り付ける

- 21** ホースをボトルから取りはずし、ボトルのキャップを取り付ける

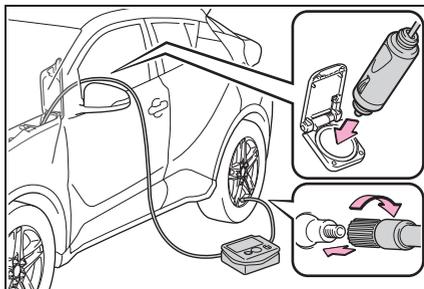


- 22** いったん、ボトルとコンプレッサーをラゲージルームに収納する

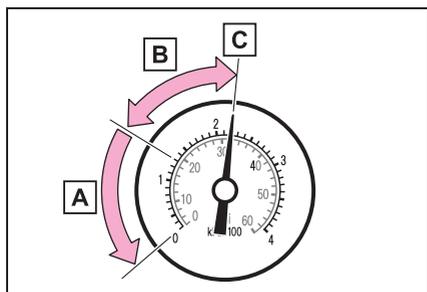
収納する際は、ホースの取り扱いにご注意ください。(→ P. 16)

- 23** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5 km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

- 24** 走行後、地面が固く平らで安全な場所に停車し、コンプレッサーを接続する



- 25** コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、OFF にしてから空気圧を確認する

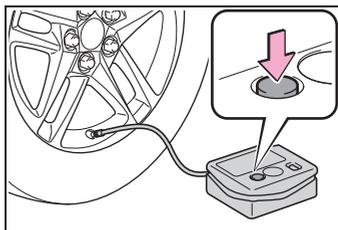


- A** 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- B** 空気圧が 130 kpa (1.3 kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **26** へ
- C** 空気圧が指定空気圧の場合：手順 **27** へ
- 26** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5 km 走行後にあらためて手順 **24** から実施する
- 27** コンプレッサーをラゲージルームに収納する
- 28** 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80 km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行き、タイヤを修理または交換する

知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1** 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



- 2** コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとノズルおよびホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気もれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130 kPa (1.3 kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- パンク補修液のボトルを逆さまにして使用しないでください。コンプレッサーの故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- コンプレッサーのホースが折れ曲がった状態で収納しないでください。折れ曲がったまま収納すると、ホースが損傷するおそれがあります。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

■ 応急修理中にいったん応急修理キットを収納するとき (→ P. 13)

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の汚れや応急修理キットの破損などにつながるおそれがあります。

- 補修液ボトルのキャップが確実に取り付けられていることを確認する
- 収納する際はホースが折れ曲がらないように注意する

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

PRK



M 47F31
01999-47F31
II-2021年8月25日
2021年9月1日 初版
タイヤバンク修理キット取扱書